

## 第4回南砺市立学校のあり方検討委員会会議録（要点記録）

1. 日 時 令和5年3月9日（木） 午後7時 ～ 午後8時30分

2. 場 所 南砺市地域包括ケアセンター 多目的研修室

3. 出席委員 28名（代理出席1名、欠席2名）

No.	役 職	氏名	所 属	備 考
1	委員長	松山 友之	学識経験者（富山国際大学子ども育成学部教授）	
2	副委員長	齋藤 史朗	学識経験者（元富山県西部教育事務所長）	
3	委 員	税光 詩子	学識経験者（元南砺市教育委員）	
4	委 員	棚田 賢也	小学校長会（福光中部小学校長）	
5	委 員	齊藤 哲也	中学校長会（福野中学校長）	
6	委 員	谷戸 仁美	保育士会（井波にじいろ保育園長）	
7	委 員	唐嶋 田鶴子	幼稚園代表（福野青葉幼稚園長）	
8	委 員	工藤 悠市	南砺市PTA連絡協議会代表	
9	委 員	川田 将晴	城端地域PTA代表	欠席
10	委 員	藤井 耕四郎	平地域PTA代表	欠席 代理：真井豊友
11	委 員	酒井 堅信	上平地域PTA代表	
12	委 員	笠原 一忠	利賀地域PTA代表	
13	委 員	山崎 賢治	井波地域PTA代表	
14	委 員	金道 真一	井口地域PTA代表	
15	委 員	橋爪 央樹	福野地域PTA代表	
16	委 員	山田 剛	福光地域PTA代表	
17	委 員	松本 久介	城端地域づくり協議会代表	
18	委 員	井渕 信雄	平地域づくり協議会代表	
19	委 員	鉢蟬 圭伸	上平地域づくり協議会代表	
20	委 員	野原 哲二	利賀地域づくり協議会代表	
21	委 員	富田 利通	井波地域づくり協議会代表	
22	委 員	東 康紀	井口地域づくり協議会代表	
23	委 員	伊豆 多都子	福野地域づくり協議会代表	
24	委 員	水口 幹夫	福光地域づくり協議会代表	
25	委 員	大河原 晴子	公募委員	
26	委 員	近川 利行	公募委員	
27	委 員	江川 由貴子	公募委員	
28	委 員	石崎 里果	公募委員	欠席
29	委 員	井上 明世	公募委員	
30	委 員	堀 勉	公募委員	

[事務局員]

教 育 長	松本 謙一	教 育 部 長	村上 紀道
教 育 総 務 課 長	氏家 智伸	教 育 総 務 課 副 参 事	吉尾 徹
教 育 総 務 課 主 幹	金谷 諭	教 育 総 務 課 主 幹 (学務係長)	山田 浩司

[傍聴人数] 0人

[協議事項等]

1. 委員長あいさつ

2. 報告事項

- |                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| (1) 第3回学校のあり方検討委員会グループワークでの主な意見 | 資料1 |
| (2) 第3回学校のあり方検討委員会後の質問・意見等      | 資料2 |
| (3) 南砺市小中学校の普通教室数について           | 資料3 |

3. 協議事項

資料4

- (1) 南砺市における学校の適正規模について
- (2) 各地域における学校のあり方の検討について（時期と手法）

— 各委員の意見発表（1人2分以内） —

4. 次回協議会の日程 第5回検討委員会 令和5年4月26日（水）

5. 副委員長あいさつ

[会議の概要]

○開会

1 委員長あいさつ

（委員長）

前回、地域に分かれて話いただいた。全体の考えなど理解深めた。本日は前回の内容をもとに市全体のあり方について考えを拡げていきたいと思っている。

2 報告事項

事務局から、(1) から (3) までについて資料に基づき報告  
事務局

- |                                 |     |
|---------------------------------|-----|
| (1) 第3回学校のあり方検討委員会グループワークでの主な意見 | 資料1 |
|---------------------------------|-----|

前回の地域ごとのグループワークについて議論をまとめたもの。

(2) 第3回学校のあり方検討委員会後の質問・意見等

資料2

委員のみなさまに共有いただき、参考にさせていただくもの

(3) 南砺市小中学校の普通教室数について

資料3

現在の校舎を利用することが前提となるので、キャパシティを知っていただく必要があることから、提示するもの。

3. 協議事項

資料4

(1) 南砺市における学校の適正規模について

(2) 各地域における学校のあり方の検討について（時期と手法）

— 各委員の意見発表（1人2分以内） —

・事務局

南砺市全体の学校の方向性について、2分以内に考えを発表いただくもの。

学びのあり方に絞って意見を発表いただきたい。

新校舎は設置せず、現校舎の活用を前提としていただきたい。

**委員A** 全地域において人口減少進んでいる。学校中心とした地域づくりが盛り上がっている中で、学校も統合すればいいのか、まだ考えはまとまっていない。

**委員B** 考えは揺れ動いているが、人口減少が本当に早く、待った無しの現状。中学校は統合する方向性を打ち出したほうが良いと思う。学習環境を整えるため各校に教科担任が必要。中学校をまず整え、学習を保障すべき。

**委員C** 義務教育学校のメリット・デメリットはまだ分からない。中学生は別として、小学生は移動にかかる負担を考えると、近い学校に通うのがよい。

**委員D** 世界遺産の文化を受け継いでいくためには、五箇山地域に小中学校は必要。また、南砺市には県立高校が2校になった。平高校も定員割れが続く。高校との連携も必要。

**委員E** 通学時間が長いと南砺市には住まない。中学校については、校舎も新しいし15年後までは今のままで良い。行事を合同で行うなど、連携を進めていけば良い。

**委員F** 福野は3クラスあって先生も多く、ありがたい環境。同級生が多いのは生活もしやすい。学校は地域に残したほうが良い面もあるが、ある程度の規模で人間関係もあったほうがよいので、中学校はクラス替えできる程度の規模で統合していったほうが良い。

**委員G** 利賀は、義務教育学校に向けて進んでいる。山村留学を受け入れている。少人数でも、子供が行きやすいという面で、議論を進めていってもらえればと思う。

**委員H** 子供の数が増えることはないと思っているので、少ない人数でどう学習していくかということが大切。五箇三村は、移住事業や生徒の交流を全体で行っていくことを考えていけばよい。井口の義務教育学校で、低学年から高学年まで一緒になって競い合っているのは、よい影響だと思う。

**委員I** 少子化に加え不登校も増えている。土台となる小さいうちは、地域を大事にした学校づくりがよいと思う。中学校は、できることも広がっていくので、統合を考えるべき。教育には、お金を投入していただきたい。子供がど真ん中の地域をつくるべき。

**委員J** 中学校に関しては、最終的に統合が望ましい。小学校は、単級でも、基礎学力を身に着ける。中学校はクラスが多いほうが良い。福光地域では令和15年までに中学を統合すべき。南砺市のモデルになると思う。

**委員K** 保護者からは、統合の意見も多く聞いている。学校では、南砺市の子供たちが、郷土に誇りをもつ教育に取り組んでいる。地域の声を入れながら学校をつくっていくことを考えている。

**委員L** 小さいころから上平で育っているので、1クラス40人にピンと来ない。平・上平地域では10年前に小中学校が統合した。子供たちは人が多くなり楽しんでいるし、競い合える。子供たちが学校に行くのが楽しくなるような義務教育学校にしてもらえれば良い。

**委員M** 教育委員をしていたときに小規模校の良さが分かった。前回の検討会ではいつまで地域にこだわるのかと言われたことが衝撃だった。義務教育学校の方向性で将来的に小さい学校になることが保護者にとって魅力的なのか。令和3年度のPTAアンケートで2割の方が統合に賛成している。統合を前倒しで考えるという意見もあるのではないかな。

**委員N** 義務教育学校化については、地域の特色を出すときに 中学生が単級になるのはどうなのかなというところがある。統合した場合は、通学距離が長くなってしまうことも不安。自分の考えとしては迷っている。

**委員O** 保育園も子供の減少で空き部屋が増えている。自分は利賀在住で義務教育学校になることに抵抗はない。山間部の私たちは30～40分かけて通学・通勤する。平野部の方は20分で行けるのに、なぜ統合を敬遠するのか疑問。

**委員P** 南砺市で育てて、南砺市に帰ってくるような教育をしていただければよい。義務教育学校になれば、地域全体で育てられる。小規模校のほうが、目が行き届く。福光、吉

江中学校の統合が望まれているのなら、したほうが良い。

**委員Q** 南砺市に帰ってきてくれるのが重要。令和15年を考えれば今のままで良いのではないのか。少人数でも過去に優秀な人材が出ている。南砺市は少人数に特化すれば良い。先生が大変になるが、市も予算をつけてバックアップすべき。

**委員R** 移住定住のために学校は必要で、義務教育学校を全面的に進めている。中学校の統合については、遠距離の子は、寮に入っても良いのではないか。交通網の整備などが必要。

**委員S** 子供たちは、地域の人たちに愛されて育っていると感じた。自分の学校を愛しているから。統合にもっていきたくない。ただ、将来を考えると、中学校は統合を進めていくべきと思っている。子供たちが切磋琢磨して、多くの意見を聞いたり、発表したりするのが大事。小学校は、地域に愛されるものであってほしい。

**委員T** 上平・平地域は、義務教育学校化に進んでいる。市の全体については、保護者、若い世代の意見も聞いていっていただきたいと思っている。私たちの子供世代が、地域に帰ってきたいという学校にしてほしい。地域に根差した意見をもう少し聞いていただいて、検討を進めていただきたい。

**委員U** 経験上、複式学級に抵抗はない。これ以上、人数が減るということで、義務教育学校やむなしと考える。

**委員V** 福光高校が閉校してから、活気がなくなった。学校が地域からなくなるのは、そういうこと。富山では学校選択制をやっている。南砺市の中学校でも選択制を採り入れたらと思う。小学校は今のままで、福光では統合を進めていってもらえればよい。

**委員W** 小学校は複式になるまでは残すべき。令和15年に複式で残すべきか否かは、そのときに決めればよい。中学校では先生の負担は大きく単級はありえない。小学校の前に保育園がなくなると思う。今すぐ議論を開始すべき。

**委員X** 子供の教育環境が第一。複式学級にならない限り小学校は残すべき。中学校は2クラス以上必要。以上を踏まえると、現在、義務教育学校化を進めている平・上平地域はこれを進める。福光地域については、吉江中学校、福光中学校を統合すれば、少なくとも2クラスが確保できる。福光南部小学校は、複式化が近い将来見えているので、早めに、福光中部小学校と福光東部小学校へ統合。井波地域及び城端地域の中学校は、井波と城端の統合でひとつとし、小学校は今のままで残す。福野は、当面は複数クラスが残るので、今のままでいけば良い。

**委員Y** 子供たちが減っていくということを悲観的でなく、プラスに捉えることができないか。今はタブレットを持っている。オンライン事業の実績もある。誰もがいつでもどこでも南砺市だけでなく、世界中と交流できる時代がくる。地域の関わり、部活動、リアルなコミュニケーションが大事だと思っている。今の地域を残していくのが前提だが、どう延命するかの議論になっている。学校規模にこだわる必要はない。統合前倒し。

**委員Z** 福光地域に特化していうと、中学校統合については、今すぐ議論を始めるべき。コミュニティスクールで新規の人材をうまくできるようになったら良い。

**委員長** もう少し、じっくり考えることが必要。次の会議と合わせて1セットと考えているので、次回、議論を深めていただきたい。

#### 4. 次回協議会の日程 第5回検討委員会 令和5年4月下旬

本日の発表に関するご意見等があれば、4月10日までお寄せいただきたい。年度替わりの時期であるが、役職を外れても引き続き委員をしていただきたいと思っている。委員を変更する場合は、引継ぎをお願いしたい。

#### 5. 副委員長あいさつ

(副委員長)

実際に学ぶ子供たち、保護者の意向が一番大切である。南砺市としての一律の方向性を示すというのは無理な話。教育は100年後の未来を据えて。南砺市民全員で考えていきたい。

閉会

以上